



発行所 国鉄労働組合盛岡地方本部
発行 佐々木 力
編集者 及川 孝
TEL 019-622-5021
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2013.12.10 第1464号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを皆の力で」
「一緒に解消しませんか、あなたの疑問。あなたに加入ってます」

第35回盛岡支部定期大会
組織の強化・拡大、安全問題
労働条件改善など闘いに全力

盛岡支部は、第35回定期支部大会を11月16日に盛岡国会会館で開催し、関係者約60人が参加した。

経過・方針の討論では、組織拡大の取り組みと技術継承問題、一関市議会議員選挙の報告、岩泉線廃線問題、職場の厳しい労働実態など11人が発言し議論が行われた。

そして、向かう1年間は「組織拡大」「安全で安心して働ける職場づくり」「正常かつ健全な労働関係の確立」「労働条件改善」「安全・安定輸送の確立」「仕事・安全総点検運動の強化」「契約社員・エルダー・嘱託社員の待遇改善」「反原発」「消費増税反対」など多くの闘いについて取り組んでいくことを参加者全員で意思統一した。

佐々木研司委員長ら新役員選出

大会は議長に稲葉孝代議員(北上駅連合分会)が選出され、最初に佐々木研司委員長が「第2次安倍内閣によるアベノミクスは、企業重視で本当の景気回復には至っていない。来年4月の消費税8%を決定し、勤労国民に増税を押し付けようとしている。被災線区は、地元住民の求める鉄路での復旧は見通しが付かない。」



当面する方針を確認した盛岡支部定期大会

岩泉線は残念ながら廃線が決定した。JR北海道における事故を見て、我々も安全問題と技術継承を、組織拡大と共に取り組んでいきたい。一関市議会議員選挙では、千葉信吉さん当選に向け、一関地区協を中心に取り組む当選を果した。私たちの正しい運動を次の世代に伝え、大きくしていくことが責務である」と挨拶した。

討論では、運輸職場から「若手に仕事を見せる・見られていくという気持ちで業務に取り組んでいく。仕事も出来て何でも話せる環境を作りたい。会社はマニュアル化の仕事も教えている。異常時の対応が不十分で乗客から苦情がでている。貨物職場から「設備範囲は増え、仕事も増えたが助役の役割を削ぎ、立会いにならないぎりぎりで行っている」施設職場から「新

入社員が毎年入ってくるが、自分たちの仕事が忙しく技術継承できない状況。駅職場から「11月1日から券売機案内業務の廃止に伴い、改札補助・車椅子案内が大変になった。新採が毎年入ってくる。話はできているが2年で運輸区へ転動していく」などの発言があった。

佐藤都久雄書記長が「一関市議選の闘いに国労の底力を見る。されど国労、やっぱり国労との評価。組織拡大は、悩むなら行動、決めるのは相手、まずはやってみよう。労

執行委員長 佐藤都久雄 再任 (盛岡駅連合分会)

執行副委員長 菅原 高明 再任 (一関工務分会)

書記長 中堤 聡司 再任 (盛岡施設分会)

執行委員 佐藤都久雄 再任 (北上駅連合分会)

執行委員 戸田 智章 再任

当面の主な日程

- 12月14日(盛岡) 第1回東北協議会幹事会
12月15日(盛岡) 地方工務協定期委員会
12月18日(盛岡) 岩手県交運協定期総会

- 12月21日(盛岡) 地本交渉委員・職能別協議会代表者会議(2014年)
1月11日(盛岡) 盛岡支部旗開き
1月12日(青森) 青森支部旗開き

原発ゼロを目指し 運動を作っていく
国労「フクシマ交流・視察学習会」

- (盛岡貨物分会) 巽岩 哲彦 再任 (宮古地域分会) 米田 勝義 再任 (盛岡運輸分会) 高杉 均 新任 (北上工務分会) 立木 秀明 新任 (一関運輸分会)



被災した富岡駅で記念の撮影

11月22日、23日日本本部主催の国労「フクシマ」交流学習会(46人参加)に参加しました。1日目全国から参加した組合員と郡山駅前からJRバスで被災地に向かい出陣しました。元自動車分会の組合員が自らの被災した体験を話しながら現視察の道案内をしてくださいました。視察の中で一番心に

焼きついたのは、津波によりホームと跨線橋だけ残った富岡駅の無残な姿でした。過去に「運転停車」した事を思い出した。荒れ果てた街並みを窓越しに見ながら宿泊地の磐梯熱海温泉・浅香荘にむかいました。2日目9時から国労議員団の狩野光昭いわき市議から現地での現状と復興への取り組み、活動経過と決算報告が満場の活動で承認され、2013年度の運動方針として提起された。少子高齢化や地方の過疎化が顕著になる中、地域公共交通の存続・活性化の取り組みを強化するとともに、総合交通体系の確立の実現を通して、社会の必要不可欠な基幹産業として存続するために社会的貢献を尽くすという方針が採択され、最後に再任された山内議長が音頭で団結を促す中で総会を終了した。その後の懇談会が開かれ、交流を深めた。

が記憶に残った年でもある。昨年師走は衆議院選の圧勝を受けて第2次「安倍政権」が発足し、日本経済を立て直すとして「アベノミクス」と称される「経済対策(3本の矢)」を打ち出し、結果として円安・株高で輸出企業を中心として企業収益が改善された。しかし、賃上げには結びつかない結果が、労働者の実感として感じられ、危惧したところである。私たちが危惧した通り、このことが起こっている。自民党は選挙前「勝つまでは静かに」と刺激的発言などは控えていたが、選挙に圧勝し経済政策で得た高い支持率を背景として、発足1年を待たずに「戦争準備法・平成の治安維持法」とまで言われる「特定秘密保護法案」を数々の力で衆議院を通過させ、会期末に見据えて参議院での成立を目指している。11月に開催した地方広聴会では、自民党が推薦した意見陳述者も含め全員が反対意見を述べ、国会の論戦でも「何が秘密で誰が決めるのか」に明確な答えもなく、「アメリカから法整備を求められている」と強弁し、政権にとって都合の悪いものは恣意的に「特定秘密」にできる内容に恐怖を覚える。安倍政権の次の目標は「憲法改正」である。憲法改正に関わる情報がないよう、秘密裏に進められる「特定秘密保護法案」の成立を急いでいる。今年師走が「戦争の始まり」と歴史に残らない、記憶に残る「廃案運動」を粘り強く取り組みよう(小)

総合交通体系の確立
社会的貢献を尽くす
第21回青森県交運協定期総会

11月22日青森県労働福祉会館で青森県交運協の第21回定期総会が開かれ41人が参加した。総会議長には三村代議員(全港湾)が選出され議事に入り、山内議長(運輸労連)から「念願の交通基本法が交通政策基本法と名称は変更さ

れたが内容的には大幅な相違はなく衆議院を通過しようや施行の見通しが立った。しかし自分たちが目指すものとは幾分の開きがある。安全はすべてに優先する課題だとの認識を持ちこれからの積極的な提案していく」と挨拶がありました。

続いて、来賓の鹿越東北交運協副議長から「行き過ぎた規制緩和で弊害は出てきているが、これに屈することなくお客さま(利用者)に信頼される政策の提言を続けたい。現する事が使命だ」との挨拶を受け、東北運輸局青森支局の丹藤主席専門官、連合青森の石田会長からそれぞれ「安全・安心・良質な交通産業確立に向け取り組む」、「労働者に不利益な制度になりうる労働法改正案阻止に向け世論を巻き込む運動を展開しよう」との挨拶を受けました。

青森支部 石田 春夫

青森支部 阿保 光春

青森支部組織 拡大対策会議

仕事・安全で話し合える場 人間関係作り組織の拡大を

11月9日、国労青森支部会館で「第8回支部組織拡大対策会議」が開催された。各分会から14人が参加し、組織拡大にむけて意見をもち寄って交流を深めた。

新幹線に接続ができず問題になっている。最近では国労にも見習いを付けているが自分ケガをしない、周りにもケガをさせない、仕事のミスはその場で終わらせ、後に引きずらないよう指導している。職場のレクに出来るだけ参加し、若手と話をするように、また



＝膝を交えて議論する参加者＝

マイプロにも参加し若手と一緒に取り組んでいる。「夜間作業が多く、ほとんど外注化・システム化され丁寧な仕事を教える迄になっていない。若手は業研などで残業が多くなっているが、若手と交流出来る雰囲気はできつつある」

「検修職場の若手は団結力が強く、新採への接触はいまのところ難しい。分会として突

破口を見いだせない状況」 「職場は平成採用が7割。平成採用者は国労という組合に對してアレルギーは無いが、組合運動には持つていない。7年かけて1人前にしようとする若手への技術継承に会社は取り組んでいないが、出張・研修が多く育成シート通りに進まない。若手には三大事故防止の取り組みを作業前に意識づけさせている」「東労組は職場の掲示板で、国労の組織破壊攻撃から組織を守るなどを過激に主張。見習いが1人立ちする際、これまでは激

励と慰労を兼ねた交流会を開催していたが、一部の労組役員の間で交流会自体が無くなった」などが報告された。今、各職場では、国労組合員にも多くの東労組の若手が見習いに付き、業務知識を吸収している。若手と接触する場面は以前と比べれば格段に多くなっているが、国労へ誘うまでにはなっていない。国労加入を自信を持って奨める為にも、私たちが職場の中心となっていく。また、趣味など通じた関係や、一歩進んだ仕事や安全問題など話し合える人間関係を構築することに努力することから一歩ずつ組織拡大を進めていくことを意思統一し終った。

青森支部 高瀬 貴弘

第18回東日本本部マラソン大会 駅伝・盛岡地本チーム 3連覇ならず2位

第18回東日本本部マラソン大会が11月9日(土)に皇居外周マラソンコースで駅伝競技に17チーム106人、個人競技に56人が参加し、12時15分に13時15分駅伝競技スタートで開催された。盛岡地本からも駅伝競技に1チームと個人に3人が参加した。駅伝の地本チームは、1区の佐藤選手が2位で2区八嶋選手に襷を繋ぎ、3区黒井選手がトップに出て、4区の村上選手に繋ぎトップを維持したが、5区花田・6区吉田選手が2位でゴール、3連覇はならなかった。

【駅伝メンバー成績】
▽1区(5キロ) 佐藤 優気(家族) 16分03秒(区間2位)
▽2区(2.5キロ) 八嶋 昌二(青森運輸区分会) 9分28秒(区間3位)
▽3区(2.5キロ) 黒井 恒夫(宮古地域分会) 10分37秒(区間3位)
▽4区(2.5キロ) 村上 敏光(青森運輸区分会) 10分09秒(区間3位)
▽5区(2.5キロ) 花田 長蔵(北上工務分会) 12分06秒(区間7位)
▽6区(5キロ) 吉田 雅美(盛岡電気分会) 20分01秒(区間4位)
▽トータル 1時間18分24秒
【個人参加者成績】5キロ
第10位 22分49秒 佐々木義仁(盛岡運輸区分会)
第24位 24分40秒 佐藤 隆文(OB)
第51位 28分55秒 梅沢 昇(盛岡貨物分会)

55人の参加で現状を再確認 東北協議会労働講座

第10回東北協議会総会は11月4・5日の2日間、盛岡市つなぎ温泉「愛真館」で開催され、関係者55人(盛岡地本は16人)が参加した。総会の前段で「非正規雇用・業務委託と労働法」と題し、

福田護弁護士(国労東日本弁護団)を講師に向かえ東北労働講座を開催した。「非正規社員は有期雇用が多く、次の契約が保障されていない極めて弱い立場にある。グリーンスタッフ・エルダー社員の労働条件改善に向け労働組合が取り組んでいくことが大事」と講義をされた。

総会は、齋藤庄司協議会議長の挨拶で始まり「東日本本部の取り組みと課題」と題し、佐藤正幸東日本本部書記長、「共済事業活動の強化について」と題し太田博二交運共済東北支所副本部長からそれぞれ提起を受けた。

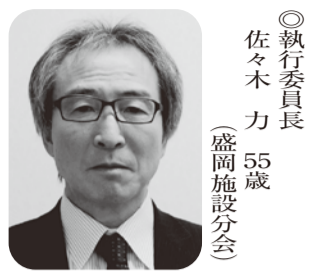
記長から本部の取り組みについて提起を受けた。職場活動報告では7人が発言し、盛岡も館洞孝一さん(盛岡駅連)高橋涼さん(盛岡貨物)の2人が組織拡大の取り組み、厳しい貨物の実態を報告した。他地本から組織拡大の報告を受け、私たちは「待ったなし」の状況を再確認した。一歩踏み込んだ行動を、明日からの活動につなげていこう。

2006年11月の一括和解以降組織拡大のウネリは大きくなり、今年8月に開催された第27回国労東日本本部定期大会以降も6人の国労加入・復帰を勝ち取っています。こうした中で東日本本部は11月16日、さいたま市・JACK大宮で「各地方本部・地区本部組織部長会議」を開催し、情勢認識の一致と当面する取り組みについて意思統一を図った。全体で23人が出席し、地方本部からは菊池組織部長が参加した。

樋口執行委員の司会で始まり、松井委員長が「国労を取り巻く情勢認識の一致が重要であり、闘争指令第1号の実現に向け共に奮闘したい」と挨拶。武田組織部長からの「7年連続の新規採用者加入だが、会社側の姿勢も現場段階では様々あり、国労側が求めないと動きはない。一括和解以降の状況の変化、会社や他労組の状況、出向先の労働条

件改善等、これらの実態を広める中で拡大に結び付いていくことが重要」との提起を受け、議論へと移った。地方からの特徴的な発言としては、「他労組若手組合員は国労の動きをきちんと見ていることをしっかりと意識していかなければならない」「盛岡」「新人教育や技術の継承問題を意識的に取り組む」「仙台」「全分会に組織拡大対策委員会を設置。計画し、行動し、総括を繰り返していく」「(水戸)等々があった。

地本役員は こんな面々 よろしくお願ひします



◎執行委員長 佐々木 力 55歳 (盛岡施設分会)

◎執行副委員長 小林 良宏 53歳 (盛岡施設分会)

◎執行委員 沢田 光広 51歳 (北上工務分会)

◎執行委員 及川 孝 49歳 (盛岡電気分会)

◎特別執行委員 佐々木 研司 55歳 (盛岡駅連分会)

◎特別執行委員 齋藤 庄司 58歳 (盛岡運輸区分会)

◎特別執行委員 田崎 秋弘 50歳 (青森運輸区分会)

◎特別執行委員 山川 治 57歳 (盛岡運輸分会)

◎特別執行委員 鈴木 清正 51歳 (北上駅連分会)

◎執行副委員長 佐々木 政志 51歳 (青森運輸分会)

◎執行委員 菊池 要悦 50歳 (盛岡駅連分会)

◎特別執行委員 小野寺 京子 58歳 (一関運輸分会)

◎会計監査員 山川 治 57歳 (盛岡運輸分会)

◎会計監査員 小笠原 勝豊 49歳 (盛岡駅連分会)